



井戸ばた会議

7月号の★募集テーマから

記憶に残る 夏祭りの風景



忘れられない夏祭り。みなさんそれぞれありますね。地域とつながるきっかけになったというエピソードもいただきました。夏本番。ボクも彼女と出掛けたいな。(募集中だけど) (編集部)

お祭り会場で感じた 子どもの成長

愛知県 TOMO 61歳

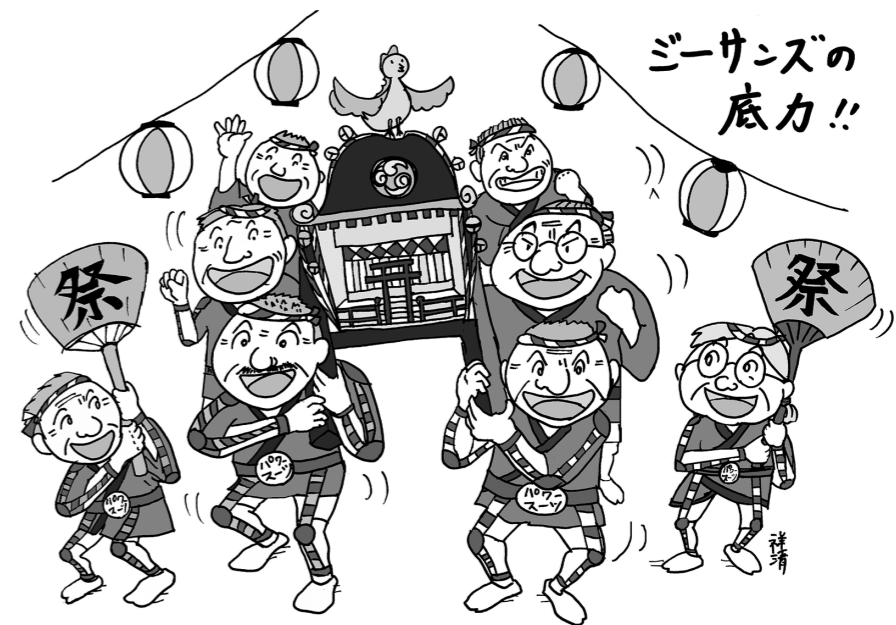
名古屋にある、熱田神宮の花火大会。毎年6月に開催される、盛大なお祭りです。

25年ほど前、まだ幼い子どもたちを連れていったときのことが、今で

も記憶に残っています。3人兄弟で、下から3歳、5歳、7歳。末っ子がようやく歩けるようになったころでした。会場は人、人、人。家ではけんかばかりの子どもたちですが、この日は一番上の長男が下の子の手を引き、迷子にならないよう気遣っていました。思いやりの心が育ったんだな。お兄さんになったんだとすこ

く感激しました。仕事をしながらの子育てで苦勞したこともありましたが、この日は報われた気分。やがて花火が上がると、それを初めて目にする子どもたちのきらきらした笑顔が。子どもたちはすっかり大人になりましたが、いつまでも心に残る思い出です。

投稿用紙のご利用 (p.41、もしくはホームページから投稿) で、掲載された方には、**1,000円の図書カード**を差し上げます。



夜通しドラを打ち鳴らす 大音量、ド迫力の祭り

愛知県 taziko 58歳

三重県の桑名市では毎年8月「くわな石取祭」というお祭りが行われます。別名「日本一やかましい祭り」。週末の午前0時。市内にある40の自治会が山車を出し、若者たちがおはやしに合わせて「かね」といわれる小さなドラを打ち鳴らしながら練り歩きます。夜通し練り歩き、仮眠を取り、翌日の夕方がクライマックスというハードスケジュール。

私も友人に誘われて見に行ったことがあります。かけ声も威勢がよく、通り過ぎるときは耳をふさぎたくなるほど。友人には20代の娘がおり、母娘は普段仲がよく、一緒に出掛けたりもしています。でも祭りの日は、

自分が楽しむことで頭がいっぱいになるそうです。ドラの音やおはやしを聞き、ちょうちんの明かりで闇夜に浮かび上がる山車が通り過ぎる様を見ると、血が騒ぐのだとか。

世界無形文化遺産にも指定されているこのお祭り。みなさんもぜひ一度、体験してみてください。

踊りを通して 地域とつながる

東京都 Y・S 47歳

職場のある地域で開催される阿波踊り。毎年8月下旬に開催され、今年で45回目を迎えるそうです。

以前同僚と仕事帰りにお祭りを見ていたら、踊りが得意な同僚が、自分も踊りたいと地域の連(踊りの

グループ)の長にお願いし、私も含め特別に入れてもらえることに。メンバーは年齢も職種もさまざまですが、地元ということでつながっています。

後で聞いた話では、住民が少しずつ減り、踊り手が少なくなってきたため、外部の人を受け入れてくれたそうです。

「女踊り」と「男踊り」2種類あり、私は女踊りです。ただ手を上げればよいのかと思っていましたが、手の上げ方、手指の角度、足の上げ方、おろし方と基本の所作がきちんとあり、基本を続けるだけで肩や足など全身筋肉痛。さらにグループごとの振りつけがあり、覚えるのが必死。それでも毎晩仕事が終わった後に練習に参加し、みなさんも親切に教えていただきました。

